

# 学校関係者評価報告書

【評価対象期間】 自：2018年4月1日  
至：2019年3月31日  
【評価基準日】 2019年4月1日

学校法人 麻生塾  
専門学校麻生医療福祉&観光カレッジ

## 目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況 .....	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針 .....	- 3 -
2. 学校関係者評価委員名簿.....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況 .....	- 3 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法 .....	- 4 -
5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方 .....	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告.....	- 4 -
1. 重点項目について .....	- 4 -
2. 基準項目について .....	- 5 -

## I. 学校関係者評価の概要と実施状況

### 1. 学校関係者評価の目的と基本方針

#### 1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、専門学校麻生医療福祉&観光カレッジの自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

#### 2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

### 2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)
業界関係者	小山 勇毅	医療法人今光会 今光ホームケアクリニック 事務長
業界関係者	北島 武	新門司フェリーサービス株式会社 管理部長
業界関係者	竹之内 豊文	株式会社リーガロイヤルホテル小倉 副総支配人 兼 総支配人室長
業界関係者	能美 和則	学校法人青山学園 青山幼稚園 理事長・園長
業界関係者	星山 正光	社会福祉法人 西日本至福会 総務課長
業界関係者	守田 昇平	医療法人医和基会 戸畑総合病院 事務次長
地域住民	井手 國明	三六まちづくり協議会
卒業生	今仁 優仁	株式会社EPO ビューティフルネーム
保護者	美根 章江	エアライン科1年 保護者

※区分別、五十音順、敬称略

### 3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2019年6月20日(木) 17:10 ～ 18:35

場 所：専門学校麻生医療福祉&観光カレッジ B棟 2階 B21教室

#### 4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校関係者委員の皆さまに、2018年度の実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告し、評価結果に対する意見をいただく。

#### 5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

2018年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

## II. 学校関係者評価委員会報告

### 1. 重点項目について

#### 【今年度の取り組み状況】

学校の教育理念、教育目標（育成人材像）の見直しを行った。「自主創造教育」「実践教育・キャリア形成教育」を教育理念に掲げ、教育目標の明確化に教職員全員で取り組んだ。その結果、教職員全員の学校運営への参画意識が更に高まり、福祉・医療・観光サービス業界に必要な知識・技能・態度を備えた人材育成を目標として取り組んだ。学生への周知方法としては、オープンキャンパス、入学後オリエンテーションなどの場で各学科のカリキュラムポリシーを説明することで、入学後の到達目標が明確となった。

教育活動としては学修方法の検討を行った。今年度は介護福祉士国家試験対策として、1年次より補講と学生の習熟度を考えた授業を実施した。診療報酬請求事務能力認定試験（医科）においても、習熟度別クラスによる授業を行うことで、学生の理解度に応じた環境で学ぶことができたため、昨年度より高い合格率となった。

#### 【課題】

学校の教育理念、教育目標（育成する人材像）について、学校構成員以外への周知を図るため、パンフレットや学校説明会の資料への掲載が間に合わなかった。今回の、職業実践専門課程の学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の場で、説明を行い各委員へご理解いただく。

教職員の研修については、「発達障がい者の理解」、「コーチング実践」などを実施し、教員の指導力向上の機会とした。法人全体の教育力の向上という点で、授業見学や模擬授業を実施することが必要であるが、今年度は新任教員の授業見学、模擬授業の実施に留まった。

#### 【評価委員からの意見】

特記事項なし

## 2. 基準項目について

### 基準 1 教育理念、目的、人材育成像

学校関係者評価結果： 適

#### 【課題、改善結果】

「学校構成員（教員、職員、学生）及び関連業界に対しての周知徹底」に関しては、本校の3ポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）を、年度末の事業計画発表や全体会で、教職員への周知を行った。

学生や保護者に対しては、オープンキャンパスや学校説明会で、本校の教育理念や教育目的・育成する人材像を周知した。入学後はオリエンテーション、ロングホームルーム等で学生便覧を用いてこれらについて再度、学生に周知している。特に、カリキュラムポリシーについては、学科毎の育成人材像を明確にすることで、各教科との関係性が理解できる体系となっている。

業界関係者に対しては、職業実践専門課程における、学校関係者評価委員会や、教育課程編成委員会で周知する機会を設けた。

#### 【今後の取り組み】

今後、学校の教育理念を社会に公表する方法として、本校のホームページ上でも掲載し、学修成果についてもブログやSNSを用い、発表の場としていく。

#### 【評価委員からの意見】

特記事項なし

### 基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適

#### 【課題、改善結果】

「学校業務を支援する事務業務の更なる質の向上」については、新塾システム導入にあたり、更に効率良く、迅速な業務ができるようにするため、委員会組織を設けた。各委員をとおして、定期的に情報が共有され、スケジュールに沿って学校業務を行うことができるようになった。

#### 【今後の取り組み】

2019年度より新たなシステムを導入するにあたり、学生に関する情報管理システム、業務処理システムを活用し、教育活動ならびに事務業務の改善をはかることで、教職員の業務の効率化を目指す。職員の意欲向上のため、適正人数の配置、資質向上を図るため、SD研修を法人本部と連携し推進していく。

#### 【評価委員からの意見】

特記事項なし

### 【課題、改善結果】

- ・「業界の人材ニーズに沿った人材育成のための学修方法」に関しては、実習評価や就職採用後の人材像について企業からの聞き取りを基に、学修方法を引き続き検証していく。講義、演習、実技、実習など、様々な観点で評価できる新シラバスを導入し、学生に対しても学習目標や評価観点を明確にした。
- ・「E-learning プログラムの活用」に関しては、基礎学力（特に国語力のアップ）対策として、新たな基礎学力テストを入学時に実施し、学生個々の弱点をデータ化した。この個人データをもとに弱点分野のメニューを中心に、E-learning プログラムを用いて学習する仕組みを設けた。
- ・「教員全体の教育力向上のための授業見学」については、新任教師を中心に授業見学を実施し、授業アドバイスシート等を用いて改善点を明確に示した。再度、授業見学を実施するといったシステムを持つことで、新任教師の授業力アップに繋げる。
- ・「研修への全員参加」については、個人情報保護、ハラスメント規定、学校概要、リスクマネジメント等、麻生塾基本研修を全教職員が参加。専門分野研修については、2019年度研修計画を立てている。

### 【今後の取り組み】

- ・新成績評価を導入し学修方法に沿った評価を実施する予定である。また、入学時に「基礎力リサーチ」テストを導入し、基礎学力やモチベーションの確認を行い、弱点を可視化して対策につなげる手段として活用することにした。
- ・2019年度は授業力向上のため、外部評価者を向かえ、学校責任者同席のもと全教職員を対象に授業見学を実施する。学生による授業アンケートは前期・後期とも引き続き実施していく。

### 【評価委員からの意見】

- ・「発達障がい者の理解」はどのような研修内容なのか。また、発達障がい者を見分ける方法は何か。企業でも、発達障がいではないかと思われる状況を見聞きすることが多く、興味のある研修である。
  - ⇒本校では、日々の学校生活の中で、対象者を観察しているなかで、その状況が見えてくることが多く、その場合、教職員グループとして情報を共有し、スクールカウンセラーなどにも対応を相談している。
- ・具体的な研修内容の決定方法とその目的を明確にする。（年間）予定として研修日程を明確化することがベターではないか。
  - ⇒ 研修日程については、年間のターム表で時期と日程を明記し、学生に入学、進級時に配布している。

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適

**【課題、改善結果】**

資格取得に関する実施体制およびカリキュラムの体系的な位置づけはあるが、改善する余地があり、教育課程編成委員や業界関係者からも意見の聞き取りを行っていく。実習終了後の報告会などで、個々の実習目標に関する成果発表の機会を設け、自ら検証しステップアップできるような機会を増やした。

卒業後の専門分野におけるキャリア形成への適応性効果については、企業アンケートなどにより、就職担当者と教員とで情報を共有し、教育活動の改善に役立てるようにしている。卒業1年後、就職先へ訪問し在籍状況、配属部署や職務内容を把握し学内で共有しており、カリキュラムの改善に活用している。専門分野におけるキャリア形成の社会的評価については、概略的な把握に留まっているので、今後、方策を考えていく。

**【今後の取組み】**

- ・学修方法については、従来の講義、演習、実技等のほか、アクティブラーニングなどを含めた複合的な学びに取り組んでいく。
- ・卒業生の専攻分野における社会的評価を知る手段として、校友会などを活用する。また、卒業生の近況を知る機会に加え、就労相談の対応ができる体制を整える。

**【評価委員からの意見】**

- ・卒業3年後、5年後、10年後に卒業アンケートを実施するのであれば、質問内容やアンケート方法についても検討が必要になると思う。  
⇒ 卒業直後は学生との連絡が容易であるが、卒業後数年経つと連絡手段がなくなる可能性が高いので、校友会での案内や、本校のHP上に連絡用QRコードやSNSを使った連絡方法を検討する。

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適

**【課題、改善結果】**

「支援の有効性についての客観的な検証」については、卒業時に学校生活満足度アンケートを実施した。教職員と学生との関係性、授業内容については、ある程度の評価がでており、支援が比較的有効であることが判明した。

また、いじめを含め精神的支援体制については、被害者から担任へ報告後、すぐに主任、学校責任者を経て法人のリスクマネジメント部門に報告。支援体制が整ったことにより、早急な対応ができた。

**【今後の取組み】**

2019年度より留学生が入学するため、日本滞在に関わる手続きや、生活環境上の問題に関するアドバイス、自治体からの留学生支援情報などを日本語教育センターと協力し、適正に提供していく。

**【委員からの意見】**

- 進路支援に関して、学生に寄り添い、密に、親身になって取り組んでいると評価できる。  
⇒ 引き続き、支援体制を整えていく。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適

**【課題、改善結果】**

必要な施設・設備については整備し、定期点検を行っている。校舎、設備の老朽化により、修繕が発生することもあるが、都度、適切に対応している。図書室所蔵の書籍の更新が必要。現時点では、法律の改正等に沿ったものについては整備しているが、十分とはいえない状況である。

**【今後の取組み】**

計画的に更新計画に沿って、整備を行っていく。

**【評価委員からの意見】**

学生からの必要設備や機材を尋ねる機会はあるか。

⇒ 学生にはカリキュラムの中で、必要機材について説明しているが、学生に尋ねる機会はない。  
実習や演習をとおして学習効果を考慮した機材を計画的に整備していく。

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適

**【課題、改善結果】**

特になし

**【今後の取組み】**

社会人ならびに留学生への来校、学校説明会、ガイダンスを促進する。業界で活躍する卒業生や、留学生の活躍の様子を、さまざまなメディアを通して紹介する機会を増やす。

高等教育無償化の制度化に向けて、申請のための準備を進めている。

**【評価委員からの意見】**

特記事項なし

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適

**【課題、改善結果】**

少子化の影響を受け、学科により入学者数に隔たりがある。経済的理由で進学を検討している学生のために、教育訓練給付金や各種奨学金等を紹介することで、入学者の増員を図っている。

**【今後の取組み】**

計画的に全ての除却対象資産の洗い出しをしていく。

**【評価委員からの意見】**

特記事項なし



基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適

**【課題、改善結果】**

法令に関する情報更新が教職員全てに熟知されているかを、確認する機会の設定に関しては、研修終了後に理解度をはかるアンケートを実施した。また、教職員等の全体会でも適宜、法令に関する情報を共有している。

**【今後の取り組み】**

従来どおり、法令の遵守については、引き続き適正な運営を図るためにも、会議で周知徹底を図り、誤りのないよう努めていく。あわせて、各種法令の閲読をとおして、その内容の吟味と確認を促していく。

**【評価委員からの意見】**

特記事項なし

基準 10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適

**【課題、改善結果】**

特になし

**【今後の取り組み】**

自己点検・評価については、教職員全員で引き続き継続し、より良い学校運営を目指す。また、学校関係者評価委員のご意見をもとに改善を行っていく。

**【評価委員からの意見】**

特記事項なし

基準 11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適

**【課題、改善結果】**

多種多様なボランティア依頼があるため、参加目的や趣旨を明確にしたうえで学生に周知することが必要であると感じた。その改善として、ボランティア参加後の学生へのアンケートを実施し、各自がどのような体験をし、その体験から何を学んだかを聞き取り、クラス内で共有する機会を持つこととした。ボランティアに対する学生の取り組み姿勢にも今後役立つ資料としていく。

**【今後の取り組み】**

学生が参加したことがある既存ボランティアについては、趣旨・目的・成果などを検証したうえで、学生と共有する。学生の積極性、行動力、コミュニケーション力の強化など、個別の課題から目標を設定し、ボランティアに参加する仕組みを検討する。

**【評価委員からの意見】**

地域道路のごみ拾い及び道路のそうじ、大変ありがたくお礼を申し上げます。気持ちの良い朝のあいさつ、笑顔が伝わってきます。これからも交流をよろしくお願い致します。また、地域文化祭への作品の出展などもご協力いただきたい。

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適

**【課題、改善結果】**

短期留学についての参加時期については、夏季、春季は実習時期と重なるため参加することが難しい。卒業年次を中心に、麻生塾奨学留学制度（参加日程は個別に選択可能）の紹介を強化したことで、参加希望者も増加した。

留学生の受け入れ支援については、今年度始めて留学生専科を開設。入学者が19名と少ないこともあり、学生課と教務が協力して個別に学生対応を行った。

**【今後の取り組み】**

より多くの留学生の受入が見込まれるため、教室ならびに常勤・非常勤講師の受け入れ態勢を整備する必要がある。留学生に関わる相談内容に応じて日本語教育センターの指示を受けながら、より良い支援ができる体制を整えていく。

**【評価委員からの意見】**

特記事項なし

以上